

知識集約型社会を支える人材育成事業 事後評価結果

大学名	大正大学	整理番号	4
メニュー	メニューⅠ. 文理横断・学修の幅を広げる教育プログラム		
事業計画名	新時代の地域のあり方を構想する地域戦略人材育成事業		

(「知識集約型社会を支える人材育成事業委員会」による評価)

【総括評価】

S：計画を超えた取組が行われ、優れた成果が得られていることから、本事業の目的を十分に達成できたと評価できる。

【コメント】

大学の改革方針を踏まえた本事業の位置づけ及び教育改革の実施基盤については、本事業計画が全学の戦略的事業として位置づけられており、大学全体の教育改革・教学マネジメント改革を推進する中核的な取組として深く根差している。特に第Ⅰ類科目であるデータサイエンスは、文系学生の必修科目としての位置づけや、産官学連携やチューター制度という学生支援制度の導入という点において他大学のモデルとなるべき取組である。また実施過程において発見された課題については、迅速に改善策が実施され、年を追うごとに実体的な取組となっていることを高く評価する。

事業計画の達成状況については、大学全体の教育改革の中核として、新たな学力観「10の力」を策定し、そこに全学の共通・専門教育、教学理念、そして教学マネジメント体制まで統合することによって当初の目標を達成した。特に、データサイエンスや学融合教育の全学必修化、3つのポリシーの改定は、学修の質向上と可視化を促した。

事業の継続性については、全学的な方針と直結した実現体制が整備されており、継続性に不安な項目は認められない。本事業計画を支える重要な専門人材としてのチューターの育成プログラムは、今後も継続される体制にある。法人のマスタープランおよび中期計画において本事業計画が定められており、財政的な担保も保証されていることから、補助事業終了後も持続可能な仕組みが構築されている。

事業成果の先進性と普及については、繰り返しになるが第Ⅰ類科目であるデータサイエンスに認められる。本科目は全学必修科目であり、そこにチューターを介在させることで、個別最適化と質の高い支援体制を実現しており、文系学生の教育のモデルとなるべき事例であり評価できる。また、第Ⅲ類科目のアントレプレナーシップ育成教育によって、従来の専門分野にとらわれない新たな学びを提供している点も評価できる。このように、本事業計画における取組には、この間の大学教育改革の主要トピックであったデータサイエンス教育やアントレプレナーシップ育成教育も組み込まれており、我が国の高等教育改革をリードするものと高く評価する。

採択時に付された留意事項、委員フォローアップ報告書及び現地視察報告書に付された課題・意見への対応については、適切かつ十分に対応されていた。